

## 安寧社会共創イニシアチブ 令和8年度 定時社員総会 次第

**日時：**2026年6月16日（火） 15:00～16:30

※16:30～17:00は任意参加の「AnCoよろず相談タイム」

**開催方法：**オンライン zoom開催

### 1. 開会挨拶 （代表理事 近藤克則）

### 2. 議事 （事務局長 溝内 辰夫）

- I. 新会員制度のご説明
- II. 令和7年度報告
- III. 令和8年度計画

### 3. 意見聴取

会員制度、令和7年度報告、令和8年度計画へのご意見、可否等について

### 4. 今年度プロジェクトの紹介

### 5. AnCo交流会

つながりづくりや、今後の連携・共創のきっかけとなる対話の場

### 6. 閉会挨拶 （代表理事 近藤尚己）

### 7. AnCoよろず相談タイム（任意参加）

活動内容、会員制度、プロジェクト参加、連携の可能性などについて、相談事項や素朴な質問

参加人数や相談内容に応じて、ブレイクアウトルームでご相談

## I. 新会員制度のご説明

新会員制度は、会員の皆様との対話の機会を増やすことを主目的とした制度再設計です。事務局へのご相談は会員種別を問わず自由にご利用いただけ、会員種別に応じて理事との意見交換の機会を設けます。個人会員・賛助会員には、分科会・プロジェクト等を通じた対話・参加の機会を整えます。現行会費のまま自動移行し、払い戻し・追加請求はありません。

観点	概要
制度見直しの目的	会員との対話の機会を増やすことを主目的に、企業規模別の区分から、目的・関与度に応じて対話・参加機会を選べる制度へ移行する。
主な変更点	理事との意見交換の回数、申込方法、担当者、HP掲載枠、非公開セミナー参加枠を明確化する。
変わらない点	年会費、正会員の議決権、公開セミナー・分科会への参加機会は原則として維持する。
適用開始	2026年6月17日から新制度を適用する。

### 新会員制度の概要

会員種別	口数	年会費	理事との意見交換	議決権
ねりきり	20口	100万円	月1回・年12回	有
ようかん	10口	50万円	年6回以内	有
どらやき	5口	25万円	年3回以内	有
おはぎ	2口	10万円	特典内なし（有料相談可）	有
あずき	1口	5万円	特典内なし（有料相談可）	有
賛助（自治体・大学）	—	無料	—	なし
賛助（個人）	—	1万円	—	なし
賛助（学生）	—	無料	—	なし

※ 詳細は別紙「新会員制度へのご移行のご案内」を参照。

## II. 令和7年度報告

令和7年度は、AnCoが構想段階から社会実装段階へ移行し、文化活動のウェルビーイング評価、企業との共同ワークショップ、ロジックモデル作成等を通じて、共創プラットフォームとしての役割を検証した。

項目	実績・概要
主要活動件数	18件
延べ参加者数	658名以上（確認可能な範囲で集計）
企業共創案件	5件
R7年度の学び	現場の問いを言語化し、評価と実践につなぐ支援がAnCoに求められていることが明らかになった。

## 会員数

会員種別	会員名	会員数（2026年5月末時点）
正会員	企業会員(大・中小・スタートアップ)	11
	関係団体会員	1
	特定個人会員	0
賛助会員	企業会員	2
	地方公共団体会員	6
	大学等学術機関	13
	個人会員	23
	学生会員	14
計		70

## 令和7年度の主な実践と学び

実践事例	主な内容	見えてきたこと
関西広域連合事業	文化活動のウェルビーイング向上効果を可視化した。	文化の効果は、作品単体ではなく、経験・空間・対話・関係性の連鎖から生まれる。
PLT「栄養のあるまち」	対話型鑑賞とナラティブを用いて、栄養概念をまちづくりへ拡張した。	栄養を、食や身体指標に閉じず、参加・関係性・地域循環を生み出す社会的プロセスとして捉える必要がある。
DNP みどころウォーク®	XR体験の意味づけや社会的価値を整理した。	生理反応だけでなく、意味づけ・対話・社会的定着のプロセスを捉える必要がある。
A10ラボ	千葉大学WACoから継続したA10ラボとの共同研究について、成果論文を公表した。	企業技術を評価、共同研究、論文化、社会実装へつなぐ産学連携モデル

## 2026年度アドバイザリーボードでの主な助言と対応方針

日時	2026年5月15日（金） 13:00-15:00
開催方法	オンライン開催

日時	2026年5月15日（金） 13:00-15:00
参加者	<p>&lt;アドバイザー&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤 達矢氏（東京藝術大学 社会連携センター 教授）</li> <li>・栗生 明氏（栗生総合計画事務所 代表）</li> <li>・澤田 智洋氏（一般社団法人 世界ゆるスポーツ協会 代表理事）</li> <li>・三木 孝氏（公益財団法人 神戸国際医療交流財団 事業推進部長）</li> <li>・矢田 明子氏（株式会社CNC 代表取締役、一般社団法人 Community Nurse Laboratory 代表理事）</li> </ul> <p>&lt;理事・事務局&gt;</p> <p>近藤 尚己（代表理事）、近藤 克則（代表理事）、占部 まり（理事）、高木 大資（理事）、瓜生原 葉子（理事）、溝内 辰夫（事務局）、伊勢田 良一（事務局）、江口 亜維子（事務局）</p> <p>&lt;監事&gt;</p> <p>中原 さくら氏（税理士法人 中原会計事務所）</p>

アドバイザーからの主な助言	R8年度の対応方針
安寧社会のビジョンを明確にする	安寧社会の定義、AnCoの役割、10年後の到達像を具体化する。
生活者・当事者に届く言葉にする	専門用語を整理し、会員・地域・当事者に伝わる表現へ置き換える。
小さな実践からビジョンを育てる	子どもの社会的処方、文化事業、健康まちづくり等の実践を通じて方法論を磨く。
地域ごとの実践と全国的知見をつなぐ	地域ブランチやテーマ別プロジェクトのあり方を検討する。
共創プラットフォームの場を強化する	セミナー、分科会、勉強会、アドバイザー交流等を定期的実施する。
持続可能な運営体制を整える	会員制度、受託事業、自治体連携、外部資金を組み合わせた収益構造を検討する。

### III. 令和8年度計画

令和8年度は、令和7年度に得られた知見を制度・事業・発信・財務基盤へ変換し、AnCoの共創プラットフォームを実質化する年度と位置づける。具体的には、①接点・共通理解の土台づくり、②実践・実装、③横断・調整という、共創プラットフォームを構成する3つを整備し、それぞれを循環させることで、個別の相談やプロジェクトで得られた実践知を、AnCo全体の的方法論と共通基盤へ還流させる。

#### 令和8年度に強化するAnCoの4つの役割

区分	区分の説明	令和8年度的主要取り組み
コミュニティ形成	多様な人や組織が出会い、学び合い、新たな活動や協働のきっかけを生み出す	新会員制度の運用、AnCoアカデミー、セミナー開催、会員交流会、理事との意見交換、地域ブランチの検討・形成

プロジェクト創出・実践	社会課題や現場の問いをもとに、プロジェクトを企画・実施し、その成果を社会へ還元する	子どもの社会的処方プロジェクト、京都府「文化の心継承事業」、園芸博関連構想、JANPIA関連事業、行政・企業等との受託事業
伴走・調整	プロジェクトや連携の立ち上げから実装までを支援し、多様な主体をつなぎながら、知見の整理・共有を行う	事務局相談、健康まちづくりロジックモデルワークショップ、分科会運営、アドバイザーボード運営、会員・団体間のマッチング支援、異分野連携のコーディネート、ロジックモデル作成支援、評価設計支援、実践知の整理と方法論化
組織基盤強化	AnCoの活動を持続的に支えるための運営基盤を整える	事務局体制の強化、相談・連携支援の仕組みづくり、安心して相談・共創できるルール整備、プロジェクト管理の仕組みづくり、会員制度の運営・改善、財源の多様化（会費・受託事業・助成金等）

### 令和8年度の重点プロジェクト

領域	概要	位置づけ
子どもの社会的処方プロジェクト	孤独・孤立化する子ども・若者への取り組みのアウトカム評価と社会的処方化を検討する。	自主事業
京都府「文化の心継承事業」	花道・茶道の社会的インパクト評価を行い、ロジックモデルと評価手法を検討する。	受託事業
園芸博関連構想	花文化・自然との関わりが情動、時間感覚、社会参加へ与える影響を整理する。	協議中
JANPIA関連事業	休眠預金活用事業における評価支援を、改善・伴走プロセスとして整理する。	7月公募予定

### 時系列ロードマップ

時期	区分	主な計画	位置づけ
5月	国際発信	ISPC 2026（京都大学）AnCoブース出展	国際発信・会員獲得導線
6月	制度	定時社員総会・新会員制度決議	サービスレベル別会員制度の正式承認・6月17日適用開始
6月～ 2-3回予定	共創	健康まちづくりロジックモデルワークショップ	健康まちづくりの価値を可視化し、評価手法と共創テーマの形成につなげる
7月	発信	健康まちづくり2026	企業・団体との接点形成
通年	共創	子どもの社会的処方プロジェクト等	多主体が参加する共創の場づくり・共通基盤の実践
通年	事業	セミナー・分科会の開催、行政・企業などの受託事業	方法論テンプレート化・案件台帳整備・入口商品設計
通年	財務	資金源の多角化	助成金・外部資金の申請検討

**令和8年度予算案・中長期計画**

項目	基準予算 (現実案)	目標案
収入合計	1,080.0万円	2,000.0万円
支出合計	1,076.0万円	1,792.0万円
当期純収支	+4.0万円	+208.0万円

基準予算は、現時点での保守的な収支管理ラインです。目標案は、案件形成・会員移行の上振れを見込む営業目標として扱います。

項目	R8	R9	R10
受託事業収入	650万円	1,000万円	1,200万円
会費収入	400万円	550万円	750万円
その他収入	30万円	50万円	50万円
収入合計	1,080万円	1,600万円	2,000万円
当期純収支	+4万円	+80万円程度	+120万円程度

**別紙・参考資料**

- ・別紙1：2026年度総会説明スライド (2\_AnCo新会員制度ご案内)
- ・別紙2：2026年度総会説明スライド (3\_AnCo総会\_統合資料\_R7総括\_R8計画)
- ・別紙3：AnCo\_2025年度活動報告実績
- ・別紙4：AnCo\_2026年度年間計画\_総会
- ・別紙5：2026.4.16 決算報告書.pdf